

第12回全日本トレイルオリエンテーリング大会

10月16日（日） 埼玉県駿河台大学

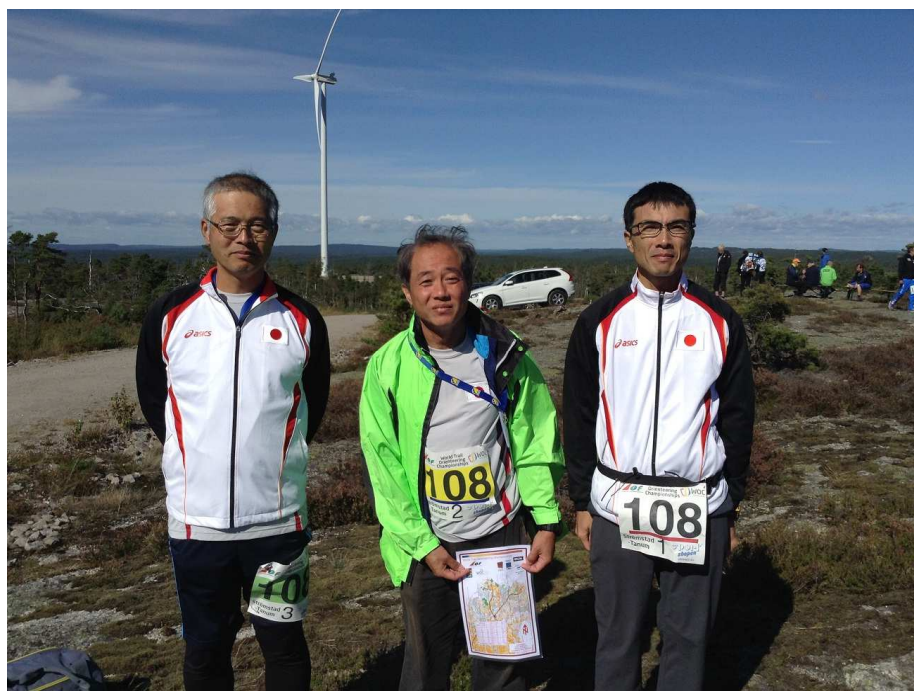
第12回を迎えた全日本オリエンテーリング大会は、埼玉県飯能市の駿河台大学キャンパスを会場に開催された。コースはキャンパス南側の加治丘陵を走る林道と、大学キャンパス内に設定された。キャンパス内のタイムコントロール2ステージに始まった競技は、車での移動の後、丘陵内の林道へ。林道はかなり急な斜度の道の左右に細

かな尾根沢が続き、正確な地図読みが要求される。後半のキャンパス内はよく整備されていて見通しがよく、林道区間からの切り替えが必要になる。林道でのフリーポイント区間やAクラスター等新しい試みを交えながらも、プランナー児玉拓が組んだコースは、きわめてオーソドックス。とはいえ、ミス誘う部分もところどころ用意され

ており、世界選手権代表選手や歴代の選手権者が苦戦する中、ベテランの荒井正敏が1ミスで並んだ2位田代3位大西をTCの差で抑えて初の栄冠に輝いた。パラリンピッククラスでは高橋義人が3ミスの好成績で優勝した。

（トレイルO委員会 杉本光正）

WTOC 2016 報告



今年の WTOC（世界トレイルO選手権大会）は、スウェーデンの西海岸ノルウェー国境にほど近いストレムスタードにおいて8月22日からの6日間、「テンポ TempO」と「プリO PreO」、そして今年度から正式種目となった「リレーRelay」の三種目で静かで熱い戦いが繰り広げられた。日本からはPクラス2名を含む7名（小泉・木村・大久保・岩田・杉本・高柳・森）が参加した。

初日、ストレムスタードの街中で開催された TempO では、2組に分かれて予選が行われ、小泉・岩田が共に11位で決勝進出。杉本・大久保は30数秒の差で無念の予選落ち。決勝では特徴的な露岩地帯が日本勢の行く手を阻み、小泉が20位と健闘したものの、岩田は36位と残念な結果に終わった

PreO Day1、海岸に続く松林の中の小道と、砂浜から臨む岩場に設定されたコ

ース。日本勢は苦戦し最高が木村の3ミス34位。Day2は風力発電の鉄塔が林立する中、風車の整備用に設けられた道沿いに設定されたコース。見通しのいい灌木地帯にフラッグが点在する。木村・小泉がなんとか3ミスでまとめたものの、総合成績は木村41位、小泉44位、大久保56位と挽回かなわず。上位に目をやると、1位はTCも含め全問正解で、2位以下も1ミスが6名と高レベルな争いとなっており、日本勢が食い込むのはかなり厳しい状況となっている。Pクラスは高柳31位・森36位。

最終日の Relay は Day2 同様 Power Plant での開催。1走大久保・2走木村が全問正解でつないだものの、3走の小泉が痛恨の2ミス。TCでも逆転できず、参加18カ国中12位という結果に終わった。優勝チーム・スロヴァキア3走のTCは圧巻。全日程を通じて、世界との差を改めて確認する結果となってしまった。（トレイルO委員会 杉本光正）